

沖縄タイムス 2017年11月7日

冬の使者 仲良く羽休め きょう立冬

クロツラヘラサギ 豊見城に飛来

7日は二十四節気の一つ「立冬」。暦の上では冬の始まりとされている。

朝晩涼しくなってきた沖縄地方では6日、豊見城市与根の遊水池・通称「三角池」に冬の訪れを告げる渡り鳥クロツラヘラサギが飛来した。アオサギと並んで羽を休めたり、餌を探したりする姿が見られ、愛鳥家らの目を楽しませている。

クロツラヘラサギは、東アジアだけに生息する絶滅危惧種。越冬のため毎年、県内に飛来し3～5月ごろまで過ごす。

沖縄气象台によると、向こう1週間は前線や湿った空気の影響で曇りの日が多く、雨の降る所がある。最高気温・最低気温は、期間中ごろまで平年より高い見込み。

越冬で飛来したクロツラヘラサギ。アオサギ(左端と左から3羽目)も交じって羽休め。6日午前、豊見城市与根の通称「三角池」(渡辺奈々撮影)



『立冬』とは言え



第 115 号
東江中学校
校長 神元 勉

7日(火)は、『立冬』でしたが、まだ、クロイワツクツクの「ジューワ、ジューワ」やアオシマゼミの「ケーン、ケーン」の鳴き声が聞こえてきます。
1日(水)の地区駅伝競走大会に始まり、名護市指定

時こそ、ゆっくり秋の空を観察してみてください。
夏に代表される「積乱雲」から、秋雲・巻積雲(うろこ雲、いわし雲、さば雲)に変わっています。「天高く馬肥ゆる秋」と言うように、秋の雲は空の高いところに行けるものが多く、空が高く感じられます。

研究発表会、JCIAインドネシア国研修生学校訪問、そして8日(水)は、1学年・人権学習
フィールドワーク
(弁当の日)が行われ、超多忙の日々です。こんな



夏の「積乱雲」



秋の「巻積雲」

心の中の一冊

小海 英二

わたしは心の中に一冊の本を持っていて、表紙も目次も奥づけもない本だ。悩みの壁に突きあたるとき、わたしはいつもその本を開く。しばしの時の経過とともに、その本はわたしの心に落ち着きとやさしい慰めとを与えてくれる。その本に文字はないのだが、その時々わたしの心の状態に添ってそこには見えない文字が現われ、わたしに向かって語りかける。知恵と呼ばれ、遠い心の内部で磨かれた鏡のように光っている一冊の本。その心の中の一冊の本を、わたしはそっとのぞきこみ、静かな生きる力を取り戻す。

読書推進委員長・玉木 白菜書